

## 清元 虫売り

田中青滋作詞・清元栄寿郎作曲・西川鯉三郎作舞

昭和 36 年西川鯉師のために作られた作品で、鯉師宅の床の間に飾ってあった伊藤小坡の美人画を見て、鯉三郎先生が舞踊化を思いつかれたものです。絵から抜け出て踊り、又元の絵に戻るという趣向で可愛い子役が登場します。

誰が為に 泣く音も細る 何故に 身も世もあらぬ 虫の闇 さあ  
さ 買わんせ すぐな心に偽り知らぬ 虫や虫 虫を買いましょう  
何虫よかる 召ませ召ませ 草しばり邯鄲 それは夢枕 ほん  
に立派な蒔絵の籠も 主がなくては淋しゅうて いや 竹の柱の手  
作りも やさしい主と二人なら 虫籠二つ どちらの籠がお好き  
さあさ心底 迷いの種も つらい浮世の 絆も義理も そこに二つ  
あるわいな 賤が伏屋の軒の端に お大名御殿のお広縁 どちらの  
籠がお好き 見込み見込まれ 祝われて 飾り朱房のおごりにつこ  
うか それですまぬと心中だて 逃れて慕う 女気は どうで泣く  
のが 定めと知れど 待たせじらして 言い逃れ どうして人は性  
悪な 性悪男は こっちもいや 逢うて山ほど 恨みを云やれ す

いっちょすいっちょ 嬉しかろ あくがれ出でて秋の野の 昔語り  
は云わぬもの 桔梗 かるかや 女郎花 招く尾花の面影に 野路  
はゆかりの色深く 錦の萩の下葉までもれてぞ置ける白露の 月は  
宿りて夜もすがら 恋しき人は鈴虫の ふりすてられて はたおり  
の 夜寒をわびるねやの戸に つづれさせちょう きりぎりす  
誰を松虫 こがれてすだく 我も思いに 耐えかねて 虫を召しま  
せ 召ませ虫を すぐな心も音に泣く虫を

